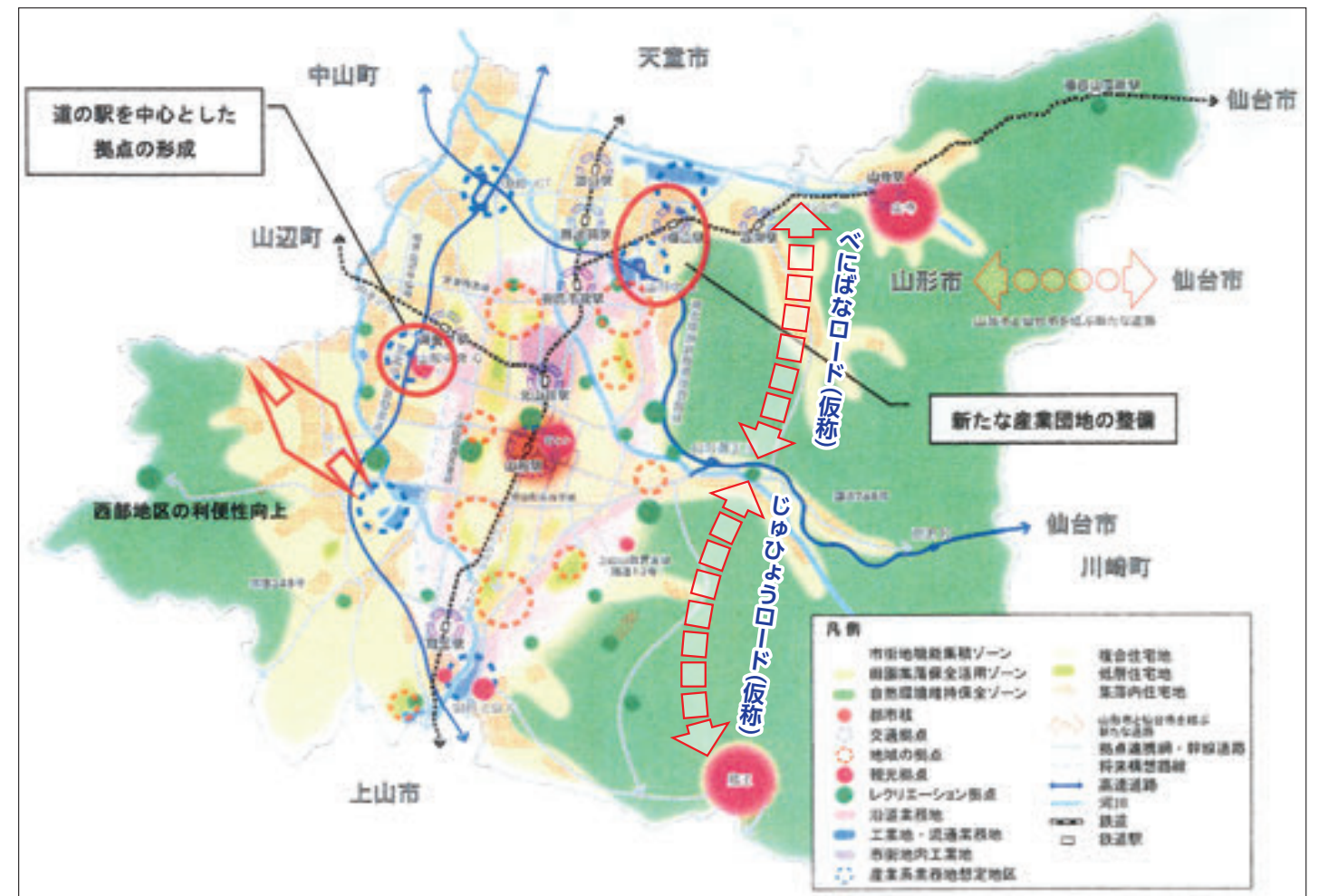


よし むら 吉村かずたけ 政務活動報告

この報告書の作成・配布にあたっては、政務活動費(税金)は使用していません。



▶ 東部ハブ(拠点) 構想

現在、山形県ではインバウンドに力を入れており国内外からの観光客が増加しております。東北中央道の整備に伴い、道の駅の構想も進捗を見せており福島県からのゲートウェイは着実に整備がすすんでおります。一方、宮城県から山形市への玄関口である山形蔵王インターがある東部地域は、まだまだ可能性を持っています。山形県の二大観光地である蔵王と山寺を最短で結び、周遊性も出しながら山形蔵王インターを中心としてハブ(拠点)機能を担っていく。東部ハブ構想を提案して参ります。

編集後記

昨年1月10日、第三子が誕生しました(次男 孝介)。妻は高齢出産でしたが、頑張ってくれ、我が家もうれしい忙しさとなっております。子どもの笑顔を見るにつけ、責任を感じ頑張る原動力となっております。思えば、県民の皆様もそれぞれ幸せがあり、それぞれの地域で仕事に家事に頑張っておられます。そういった一人一人の幸せの実現の為に少しでも力になって行くのが、行政や政治の役割だと思います。今後も政務活動を通し、県民の皆様の生活向上の為に頑張っていく所存でございます。より一層のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。最後までお読みいただきありがとうございました。



政務活動、各種政策について
是非皆様の
御意見、御感想等を
お聞かせ下さい!!

f フェイスブック配信中
また、フェイスブックでも活動を随時アップしております。



吉村かずたけ事務所 〒990-0024 山形市あさひ町26-29
TEL 023-632-2020 FAX 023-632-2039

昨年六月二十八日から降り始めた豪雨は、気象庁により「平成三十年七月豪雨」と名付けられ、西日本を中心に猛威をふるい甚大な被害をもたらしました。東日本大震災を経験した私達東北人にとりまして、人ごとではなく、映像をテレビ等で見る度に胸が締め付けられる思いでありました。亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興を祈っております。山形県は災害が非常に少ない県ではありませんが、災害は常に想定内でおこるものではありません。常に最悪を想定しながら、河川の維持管理や交通や通信等の各種インフラを点検、整備しなければなりません。蔵王ダムは築四十六年が経過しており、貯水量七三〇万m³(うち洪水調節量二一〇万m³)であり相当の豪雨に耐えられますが、最悪の状況も想定し県では三月までに浸水想定区域を見直し、山形市がそれに基づいてハザードマップを作製しております。またダムだけに頼るのではなく堤防整備もしながら、越水しても決壊しない補強が必要と考えます。ハード、ソフト両面からの対策が今後必要不可欠であります。吉村県政も三期目に入り、台湾からのチャーター便を一四便誘致、日本遺産の認定、つや姫の販売戦略の成功、IWCの日本酒部門の東北初開催等の成果が出ておりますが、まだまだ課題も山積しております。県議会議員としてしっかりとチェックをしながら、更なる課題解決の提案をしていく所存であります。今般、三十年度の政務活動報告を発行させていただきます。現在の三期目の活動を中心に作成いたしました。ご一覽賜りましてご意見等を頂戴できれば今後の活動に役立てて参ります。

平成三十一年二月
山形県議会議員 吉村和武

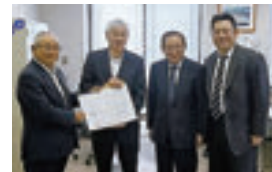
三期目の主な活動報告

地域課題の解決に尽力

道路における渋滞解消や機能強化、危険箇所への信号機設置等、整備に関する要望は地域の安全の確保にほかなりません。

また、それぞれの地域における産業の振興や文化財の利活用は山形市ひいては本県発展の原動力になります。

今任期中にも様々な県民の皆様から要望やご意見を頂戴いたしました。



道路や河川につきましては、その都度県へ要望を行っておりますが引き続きしっかりと活動を行っていきます。両所宮の隋神門については神社関係者のご努力もあり、県の重要文化財に指定されました。今後修復に向けて協議を重ねて参ります。

須川沿岸の環境整備の推進

平成15年、サイクリングロード促進の会(現たらよの会)の皆様より須川に平行してサイクリングロードを整備することはできないか、との要望を受け当時の吉村市長、知事に就任された吉村知事に要望を行ってまいりました。平成23年、当時民主党政権下で農林水産大臣を務めていた鹿野先生のお力添えにより国において事業化、翌24年度より「須川かわまちづくり」事業として整備が進められておりました。

事業が完成し、記念式典とサイクリングロードの走り初めが行われました。今後計画されている県管理の部分(築堤にともなう整備)が進んでいきますが、引き続き地元の皆様の話をお聞きしながら提案を行って参ります。

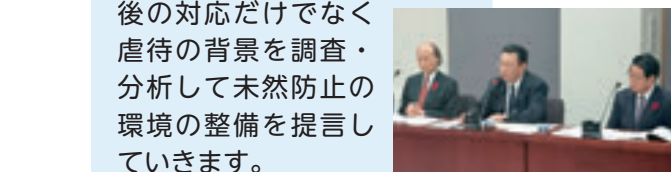


市町村のための子ども虐待マニュアルの改訂

県では子どもの虐待に対する市町村の適切な対応への手引きとして平成22年に「市町村のための子ども虐待マニュアル」を作成しました。

しかし、平成28年に国の児童福祉法が改正され、ネグレクトやDVに対する定義が変わり、昨今の虐待状況にしっかりと対応できるようマニュアルの改訂が必要と考え、提案をして参りました。

平成30年3月、マニュアルの全面改訂が行われました。虐待の根絶を目指し、虐待後の対応だけでなく虐待の背景を調査・分析して未然防止の環境の整備を提言していきます。



海外への米の輸出増への取組み

米の生産調整(減反)政策が転換される中、海外輸出による県産米の需要拡大は農業県にとって今後必要不可欠になってまいります。県のつや姫観光大使でもある、俳優の船越英一郎さんよりハワイ州で製麺業を営む郊木社長をご紹介いただき、アメリカへのつや姫輸出に取組みました。

超党派議連を結成し、農協との販売価格の調整、領事館を無料でお借りしてのプロモーションの実施等、県議会議員が主体的に動き、県当局や全農の支援もいただき輸出拡大に成功いたしました。(平成26年度 0t→27年度 6.6t→29年度 約20t) 今後は、アメリカはもとよりアジア各国等へ米や県産品の輸出拡大の提案をして参ります。



災害時の支援体制の強化

昭和42年の豪雨時、孤立した小国町に赤十字本社から飛行隊が派遣され救援を行いました。その後、各県の赤十字に飛行隊支隊が結成されてきましたが、山形県には飛行隊支隊がない状況が続いておりました。2016年の熊本地震で飛行隊の活躍が再評価され、県内での結成が望まれておりました。

山形県航空協会の協力を得て、三川病院の錦織理事長を隊長とする39番目となる山形支隊が結成されました。今後も民間の力も活用しながら災害支援体制の構築と、災害時小児周産期リエゾンの整備等を提案して参ります。



宮城県との連携の強化

本県の隣県である宮城県。県都同士の近接もあり、横軸の道路の整備や災害時の連携はもちろん、東日本大震災後の東北の経済状況を考えると、ある程度お互いの得意分野に特化して首都圏や海外にプロモーションを共同で行う事が必要と考えます。

郡和子仙台市長と会談、インフラ整備や災害時の連携について意見交換を行いました。また、首都圏の企業に宮城県の佐藤光樹県議と訪問。両県の職員からも同席いただき、山形県は農産物、宮城県は海産物とすみ分けを行った共同プロモーションを初めて行いました。今後は更に連携を深め、海外輸出戦略等も共同でできないか調査をすすめて参ります。



日々の活動の一コマ



▲会派の県政クラブでは政調会長として政策の研修、立案を



▲県議会有志花笠議連の事務局長として花笠パレードに参加



▲鳥海月山両所宮節分祭にて仲間とともに



▲立谷川の芝桜祭りにむけて矢吹県議の後援会とともに草むしりを



▲F1を目指し頑張っている山形出身大滝拓也選手を応援



▲山形一中PTA会長として活動。写真は蔵王大権現で東沢小歴代会長さん達と



▲東部地域から要望していた、パークゴルフ場のオープンで副知事、市長と始球式を



▲隠岐病院にて過疎地域における総合診療について研修。「コウノドリ」で登場されたイチロー先生と



▲山形市農協で取組む殿セロリ、姫セロリの生産現場にて